

2019年度 一般社団法人大学女性協会 セミナー
教育・ジェンダー・共生
—あらゆるハラスメントを乗り越えるために—



「地域でのDV、ハラスメント、 性暴力防止にどう取り組むか」



長崎支部会員
NPO法人DV防止ながさき
中田慶子
2019.10.19 NWEC

世界的な #MeToo 運動の高まり



2017 伊藤詩織さん「ブラック・ボックス」

2018 財務省の記者へのセクハラ

2019 性暴力加害者への無罪判決が続出

性暴力に対する「フラワーデモ」があちこちで

DVと児童の虐待死事件



2018.3月 目黒区

船戸結愛(ゆあ)ちゃん 5才

母親は懲役8年の判決で控訴、父親へ18年の求刑

香川から目黒へ転居 背景にDVあり

2019.1月 野田市

栗原心愛(みあ)ちゃん 小4

糸満から野田へ転居 背景にDVあり

セクハラ、性暴力・・・ 長崎市や長崎県で

- 2019年1月:
長崎のローカル紙の社長がセクハラ発言。女性団体が連名で抗議。
- 2019年4月:
2007年に長崎市幹部による報道記者への性暴力(加害者は発覚後に自死)。市が無責任な噂の流布を放置、二次被害防止の対策を怠ったことに対し、謝罪と再発防止を求めた日弁連勧告を市が拒否。勧告受け入れを求めて被害者が提訴し、裁判が進行中。
- 2019年6月:
昨年4月に長崎県庁内でのセクハラ・パワハラにより適応障害を起こし退職した女性が、県と加害者を提訴、裁判が進行中。
- #MeTooの運動の結果、被害者が声をあげてもいいのだという気持ちになったこと、それを応援しようという雰囲気が出てきたという変化は大きい。
- 地域の女性団体は、裁判傍聴などで「この問題を見過ごさない」という立場で応援しているが、狭い地域社会の中で、それぞれが持つ活動課題に取り組むのが精いっぱいという限界の中で苦心し、悩んでいる。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



5 ジェンダー平等を 実現しよう



5.2

人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性および女子に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。

DV防止ながさきの活動について

- 2002年設立 2003年NPO法人化
- 活動内容
 - 被害当事者の相談・支援
週4回の電話相談、面接相談など
 - 2004年から若い世代への予防啓発活動開始
中・高校生、大学生へDV予防教育の実施
年間90校、15000人以上。すでに約17万人へ実施
 - 支援のための人材育成 講座の開催、講師派遣、
 - 行政と協働しての活動（委託事業など）
一時保護後の中長期の自立支援(アドボケイト的支援)
母子双方への心理教育的支援
 - 被害者支援の立場から、加害者更生プログラム実施へ協力



内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成29年度)より

配偶者間の暴力の被害経験	夫→妻	妻→夫
身体暴力	19.8%	(14.5%)
精神的暴力	16.8%	(10.0%)
経済的圧迫	10.0%	(2.9%)
性的暴力	9.7%	(1.5%)
被害を受けた人のうち命の危険を感じた者	15.0%	(3.1%)

交際相手からの暴力の被害経験	女性	男性
	21.4%	(11.5%)
<u>同居する交際相手からの被害経験</u>	<u>57.4%</u>	<u>(27.3%)</u>
被害を受けた人のうち命の危険を感じた者	21.3%	(12.1%)
その後別れた者	56.0%	(37.4%)

LGBTの交際でも、対等でなければ暴力は起きる

DVについての「誤解」(神話)を無くそう ～ 啓発の重要性

1 見えないけれどたくさん起きているのがDV

(夫婦間の身体暴力の経験者は、妻の5人に1人 なんらかの暴力は3人に1人)

2 ストレスや飲酒が暴力の「原因」だ、は誤解

(ストレスや飲酒は、いいわけに使われているだけ。加害者は暴力を**選択**している)

3 被害者の努力で暴力は減らすことはできない

(努力するほど要求されるハードルが高くなり、被害者はエネルギーを奪われる)

4 別れたり逃げたりできなくて苦しいのがDV

(怖くて逃げられない、生活の心配、子どもの心配などがつきまとう)

5 謝罪されるたび許すことで、暴力はひどくなっていく

(許すのは美德？ 繰り返すことで暴力は激しくなる傾向がある)

6 加害者と離れても暴力の影響は長期間残る

(女性にPTSDが残り、子ども自身や、母子関係に影響があることも多く、長期的な支援が必要な場合も)

7 家庭の中で親の暴力を見ることは、子どもへの虐待

(両親揃っていないとかわいそうなどの、固定的な家族像を変えていく必要)

DVを無くし被害者を支援するために必要なこと

1 被害者・加害者を出さない

～予防教育で未然防止・早い気づきを

2 被害者支援(短期) 法的な整備は現在この部分のみ

～早い時点での相談・一時保護の充実

3 被害者支援(中長期)

～生活再建のためのアドボケイト支援

4 子どもの支援(母子双方の支援)

～子どもの心身の安全をはかる、連鎖を防ぐ

5 加害者対策の実施

～被害者支援の立場から、加害の再発防止

(被害者が逃げるという発想そのものがおかしい)

DVは子どもへの虐待と密接に関係 (加害者は妻と子の両方を支配する)

DV の目撃は児童への心理的虐待
(児童虐待防止法第2条第4項)
暴言、DV目撃での脳の萎縮も証明されている

現状では、DV目撃だけでは子どもは保護されない

ケアなく放置すれば次世代へも影響
→ DV、虐待などの暴力や
貧困の「連鎖」の可能性



内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成29年度)より

・被害があっても別れなかった理由(女性)

「子どもがいるから 66.8%」

- ・ひとり親にたくない 53.5%
- ・子どもにこれ以上不安や心配をさせたくない 40.9%
- ・養育して生活していく自信が無い 40.2%

「経済的理由 48.9%」

・子どもがいる被害者のうち

子どもへも直接暴力があった 21.4%

(100%の子どもが面前DVという
心理的虐待を受けている)



不安

いつお父さんが
切れるか心配

葛藤

お父さんは好きだけど
お母さんもかわいそう
私はどうしたら？

自責

お父さんの暴力や
両親の離婚は私の
せい、もっといい子に
ならなくちゃ

子どもの毎日



昨夜はあんなに暴力を
ふるっていたのに、今
朝は静か。あれは夢？

混乱

家で起きていることは
誰にも言っははいけな
い

秘密・孤立

誰も私の気持ちを
わかってくれない

お母さんは私を
守ってくれない

不信

DVがある時に 子どもに多く見られるサイン

- 暴言、暴力的な行動を学んで身につけがち
- 自分を大事に思えない
- 不安、元気がない
- 人間関係が苦手、孤立する
- 発達や学習の遅れがある場合も
- とてもいい子で、がんばりすぎる → 疲れる
- 母親と子供の関係がうまくいかない
- 不登校、心身の病気、非行などが起きやすい



早めの適切なケアで、母親も子どもも過ごしやすいになる。
早めに相談し、支援につながる事が大事。

若い世代へのDVの予防教育の必要性

現在・将来のDV被害・児童虐待を予防する

- ・ 性関係の低年齢化
- ・ 被害・加害を自覚することで被害の深刻化を防ぐ
- ・ 相談の大切さ、相談先の情報を伝える
- ・ 性行動に伴うリスクをきちんと知る = 性教育
- ・ 友人からDVの相談をされた時に間違った対応をしない

伝えているメッセージ

暴力とはどういう行為か、NOということの大切さ
対等な関係とは何か、
気持ちを言葉であらわすこと、
暴力は加害者が選択した行為である、
相談の大切さ、

……など

被害を受けても再出発できる社会のために

- 1 DV・セクハラ・性暴力は社会の構造から生まれる
 - 社会を変えないと止められない
 - 社会が支援体制を作る責任
- 2 被害を受けても再出発できる社会へ
 - 経済的支援、長期的な精神的支援、多様な選択肢、母子双方への支援、法的整備、加害者対策
- 3 支援体制の構築を
 - 経済的自立ができない支援者・・・、若い世代が参加したくなる、活躍したくなる支援体制へ



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



暴力容認文化を変え、ジェンダー平等を実現する。
それによって、DV、性暴力、ハラスメントを無くす。
誰もが能力を発揮でき、再出発の選択肢が豊富な社会の実現を

～ 基本は非暴力教育
ジェンダー平等の教育